

テーマ : 『その人の権利と権利擁護』～人の権利から支援のあり方を考える～

受講の振り返り①

	1 : 十分に理解 できた	2 : まあまあ理解 できた	3 : 不十分だった
『なぜ権利 (rights) ?』	10名	28名	1名
『あたりまえの権利、公的制度対象者の権利と支援者の義務』	10名	27名	2名
～ビデオ映像をとおして、人としてのより良い関わりを考える～	11名	26名	2名

受講の振り返り②

1 『その人の権利と権利擁護』～人の権利から支援のあり方を考える～についての講義・演習によって得たことは何ですか？

1. 一番印象に残っているのは、「権利」を主張する、しないという権利です。自ら行使することができる人もいるが、中には自ら発信できない人もいます。私たちはその沈黙する人が発信しないから良いではなく、なぜ発信しないのか。背景や思いはどんなものがあるのか。しっかり考える事が大切だと思った。また、何らかの理由で発信できないのであれば、どうしたら本人が発信できるかを一緒に考えることも1つだと感じました。
2. 権利について契約という視点と、13条、25条の考えが根底にあり、その部分をみていくことが大切。～されない、～したいというのが守られるのが普通だが支援者で決めることを誘導し、それを自立の支援だと思いうように考えていたことが反省する点でした。
3. 本人がどう思っているか？ どうしていきたくないか？を大切にして支援者側の都合ではなく当事者主体の支援をしていく。権利を訴えることができない人もいます。  
その人に合った選択肢を提示して、本人に決めてもらう。認知症になってもその人らしさはなくなる。
4. 自分のこれまでの支援の振り返りができ多くの反省と気づきがあった。どれだけ多くの正義という支配をしてきたか、心が痛んだ。
5. 権利には私法上の権利と公法上の権利があって、公法上の権利について見落としがちになっていると感じる。あたりまえの生活とはだれが決めていくのか、本人主体、本人参加が必要である(本人がわかる方法で説明していくことの大切さ)。権利の上で眠る人の支援をどうするのかを考える機会となった。

- 6.主体と内容が誰（本人）のどのような（内容）であるかを意識する。本人抜きに話しがすすみ、主体が本人でなくなると「本人のために・・・」という誤った方向に進んでしまい、かえって権利侵害をしてしまう。あくまで主体は当事者本人である。
- 7.権利について学び始めたばかりで、まだまだ分からないことが多いため、権利にはベースとなる公法上のものがあると知れて良かったと思います。  
契約型福祉をベースに権利を考えていくリスクを知ることが出来たので、次はそれを現場で自分の行いに反映していきたいです。（まだ染み込んでいないと思うので・・・）また、「権利擁護」は本人抜きに勝手な判断で行う危険を知った上で、意思決定の手助けをする必要性と難しさと考えさせられました。グループ内で意見交換出来たのも良かったです。
- 8.権利について誰のための、自由とは何がどこまでが侵害になったり、意思決定支援になるのか、自分のこれまでのあり方について考えさせられました。本人のことを決める話に本人を入れていないということについても、社会全体で考えていくべきだと思いました。
- 9.権利そのものの考え方を改めて整理して学べた。私法上の権利と公法上の権利  
権利擁護とは「普通」ということ、～されたくない、～したいを支援するという両面を考える。権利擁護という名の危うさ（「その人のために・・・」）
- 10.私法上の権利の前に公法上の権利がある。  
権利擁護には消極的側面と積極的側面がある。  
権利と権利擁護について深く考える時間（DVD など）
- 11.誰のどんな権利なのか？誰が困っているのか？複眼的な視点の必要性。障害は社会が作っていること。権利＝自由、他者とそれがぶつかった時に考えれば良い。「調整が公共の福祉」権利主張はわがままではない。する、しないは自由。できない人の声を拾う。本人の主張は本人の利益に反していないか？を考える。本人の意思決定をサポートできる選択肢の提示。
- 12.「眠っている権利を放置しない。」「問題が起きるのではなく作られるもの。」「正義、マヒの暴走」やはり「困っているのは誰」という視点が重要だと思う。
- 13.権利という言葉は常に使うものの、改めて考えていませんでした。誰の、どんな、権利なのか自分の都合で解釈、実施していたことを反省するばかりです。
- 14.違い（自分との）を認めることは大事。だが、その為には正しい知識理解が必要。無知は偏見を産み、差別視を助長してしまうことを感じました。
- 15.権利が実現できないのは障害や病気に原因があるのではなく、権利が実現できない状況、環境に原因がある。
- 16.障がいや病気の有無にかかわらず、「人と人」との関わりなのだと思った。「さよなら CP」の中で横田さんがまっすぐこちらを見ている時にそれを直視できない自分がいて、自分の中にある偏見に気づかせてもらった。
- 17.改めて「権利」「権利を守るには」を勉強し、誰の権利を守るのか、と考えていくと、利用者をきちんとみることを含め、誰を主体にすすめているのかを常に意識しておかないといけないと思いました。
- 18.自分が不本意に権利侵害している事や、差別心を持っている事を改めて再確認する事ができた。
- 19.権利には公法上の権利と私法上の権利があり私法上の場合は義務が生じる。

措置型福祉から契約的福祉になったが、権利が眠ってしまってしまう事がある（当事者が発信出来ない場合もある）。

愚行権もある。※当事者本人のどんな権利があるかを知る事の大事さ。

- 20.権利とか自由の定義がはっきりしない。けれども「権利」の根拠には憲法 13 条 25 条があるという考え方。
- 21.本人を主体とした権利のベースの考え方を学ぶ事が出来、3 つの考え方の違いについて得ることが出来た。具体的事例をもとに権利の切り口から考えられた事が良かったと思います。
- 22.民法の視点から考えればわりとすっきりと整理ができた。権利が侵害されていれば、その被害の回復や擁護といったふうにすべきことがおのずとわかる。社会福祉士の立場でのみ考えていくとどうにも行きづまる。
- 23.『権利』いろいろ考える機会を得たこと。その人を理解しようと努力すると言っているが全く出来ていない自分に気付かされました。
- 24.本人と話し合うことの大切さ、偏見をとり除く、その人を知ることの大切さを学びました。支援する人ではなくその人をわかろうとするとところから始まる。こちらの考えを押しつけるのではないということ、また、自己決定支援に必要ないろいろな提案をできるよう私達をもっと学んでいかななくてはいけないのだと感じた。
- 25.その人の権利と権利擁護の講義を聞き、権利の「根本主体はだれの為のどんなものなのか」が重要だと思いました。また、その人を見る、分かる努力をする必要性を知りました。あたり前の生活をしていく上でまわりが勝手に決定しない。最終的には自分で決める。難しければ自己決定の支援（提示）が必要だと感じた。
- 26.権利とは一言で表せない。それだけ深い。簡単そうで難しい。ただその中で自分の意思で権利を行使するかしないかの選択ができない人、また、本人の意思で本人の利益にならない選択をした時はどうするか。こういった事をしっかりと本人をみて理解していく事が大切である。また、権利の主体は誰なのか？権利の内容は何なのか。本人を抜きにせずこれらを意識して関わっていくことが大切。
- 27.権利の上にならぬ人、ちんもくをする人、ちゃんと保護しなくてはならない人の根拠をみきわめる。最初の場面でパターンリスティックになってはいけない。本人の為は正義のおしつけである。
- 28.どこまでも深く考える機会となったがむずかしかった。支援者として絶対忘れてはいけないもの→あなたのためにやっているのよと言いながら、実は支援者のためにやっていることがあることを常に意識すること。声の出せない人に対しての権利をどう守っていくか。主張イコールわがままではないという見方をしていくの大切さを学んだ。
- 29.立ち位置を見失いかねない危険性と隣りあわせなので、普段から利用者主体で物事を考えるクセを付けていきたいと気づいた。但し、利用者のわがままなのか、リスクに対するおせっかいなのか、あらゆるバランスが付きまとっている。そのあたりを更に学びたい。
- 30.当事者、支援者それぞれの立場によって考え方が違っている。
- 31.基本的人権を理解しなければいけないということ。
- 32.自分の「権利」、その人の「権利」人が生きていく上で互いに主張し合い、話し合いが行われていくことで、今大事にしなきゃいけないことが見えてくるのかなと思いました。

あたりまえに本人と一緒にその人の人生を考えていくことが楽しめるよう、自分ができることから行いたいです。

- 33.本人を含めて課題検討や話し合いを行う重要性を学ぶ事が出来た。
- 34.私法上の権利、即ち契約に基づく権利は重要ではあるが公法上の権利がその基盤となっていることを忘れてはならない。
- 35.誰の権利なのか、どんな権利なのか、本人はどう思っているのかを考察しなければならないと感じた。
- 36.公法上の権利が保障されていることがまずは基本になるということがわかった。  
権利を行使しない、できないのはどんな理由があるかの把握が大切だと思った。
- 37.愛情、思いやり、その人のためと無意識で対応している事が、当事者が主体的に生きる機会、失敗する機会が奪われるという面にもつながり、それを当事者は苦痛であると認識している人がいるという事の理解。
- 38.社会的にはより多くの人の「当たり前」のことが一般的で普通になると思う。また、その中で少数の人たちや思いに対しては偏見がもたれやすいと思う。その事をしっかり、受け止めた上で個々の人個々の思いとしっかり向き合っていく事。誰もが持っている権利とは何かしっかり考えていく事が尊厳を保ち、自立を支援していく上で重要だと思った。
- 39.支援者、親族のみで決定していくことの不条理を理解した。これまで組織、自分の立場で本人抜きで、進めていたことのおろかさを痛感している。～されない、～したい。自分が願うことは当然に本人（当事者）も同じである。明日から面談対応する中で、上記に述べたことをスローガンに活動（就業）していきたい。
- 40.人としての基本的な権利（憲法にも保障される権利）からその人の支援を考える必要がある。その権利を行使するか否かは本人の自由であり、判断能力が低下し権利を行使できないのかを見極めつつ、押しつけでない支援をしなければならない。

## 2 得たことを、実践でどのように活かしたいと思いますか？

- 1.考える際は、その人と一緒に考えていき、支援者側がすべて行うのではなく本人主体で取り組めるような働きかけ。（情報が不足？疾病から？周りの環境？本人の思い？）
- 2.本人との対話を意識したり、ケア会議等本人をいれた効果的な事ができるようにしていきたい。信頼関係を作るのは難しいが本人がどのように思っているかをしっかりきくようにしたい。
- 3.日々の総合相談や困難事例に活かしたい。ニュースや新聞を見るときにも当事者の視点を持ちたい。本人を分かろうとする努力をしていきたい。
- 4.判断力が落ちてきている方に対して本人のことを理解する努力をもっと行っていく。どのような状況となっても本人のコアの部分は変わらない。同じ人間なのだという意識を忘れない。
- 5.本人のためだからと先回りせずに、本人と一緒に考えられるようにまずは参加してもらうことをしていきたい。本人の思いを表現する場や考える機会をうばわないようにしていく。
- 6.家族であったり支援者が主体の考えのもと、話や物事が進む。決定することが多くある。本人の話聞き、本人に理解できるように説明し、選択できるだけの情報を整理し、本人と一緒に考え決

めて行く。

- 7.まずは、本人の話を良く聞こうと思います。本当に言いたいことを言える関係が、沈黙せざるを得ない状況を作ってしまったか、先回りして色々なことを取り上げてしまっていないか、自分に問いかけながらも本人と関わっていきたいです。「分からないだろうな・・・」という思い込みではなく、伝わる努力をした上で選択肢の支援が出来れば良いなと思います。
- 8.上記のように、本人が求めている本人にとって最善とは何かを、専門職側からのみ誘導するのではなく、わかりやすい説明や選択肢を提示し、自己選択をできるように支援できるようにしたいと考えました。本人もまじえてカンファ等とり入れていききたいです。
- 9.日常の実践の中で当事者は相手（事業所や他の住民等）が対等な関係になっているか。権利の上に眠る存在になっていないかという認識視点を常に持ち、関係を調整しなければ・・・と思う。
- 10.1人1人が違い、その人の「普通」「あたりまえ」の生活がかなえるサポートをしていきたい。根拠、行政との連携を深めていきたい。
- 11.本人と一緒に話し合いをする。意思決定のための選択肢の提示。先回りせず本人が決めたことに、後からフォロー。リスクあってもできることの支援。
- 12.やはり「困っているのは誰」という視点が重要だと思う。カンファレンスの場面+契約時の場面に本人を入れる事はもちろんの事、本人のリスクを負う権利という事を現場で考えていきたい。
- 13.実践で活かしてこそその学び。主体は誰か、主語が誰になっているかを意識していきたい。
- 14.自分の価値感で、相手を評価したり関わりを持つことに注意をする。時々、関わりにおける自分の罪悪性（一方的な）を省り見たいと思います。
- 15.権利を実現できるよう本人ではなく周りを変えていく努力
- 16.まずは自分の中にある（偏見を含めた）ものの見方や考え方をしっかりと自覚して、いろいろな視点から考えられるようにしたい。また、「誰の権利なのか」というところがぶれることのないように常に意識していきたい。
- 17.誰が主体かかくにんすること。利用者をみれるよういろんな意味で研鑽すること。
- 18.常に内省化し振り返り自覚する事。権利侵害をする可能性がある私が、支援者として関わるリスクを忘れない事。
- 19.支援する当事者はどんな権利があるのかを確認し、それを当事者の判断で権利を実行しているか、又、判断能力のない人は、その人の権利を保護していく事が出来る様応援したい。
- 20.先回りしてしまう`おせっかい”ではなく権利擁護をしていきたいと思いました。「安全な生活はない」
- 21.支援者側で進めてしまう事が多く反省の上で権利から支援を考えたり、本人を含めた話し合いの上で行うようにしていきたいと思います。
- 22.支援困難に陥った際に、せばまった視界を広げるのに役立ちそう（こりかたまっていると思うので）
- 23.理解は不十分だが、誰の権利なのか主体はだれなのか。その人を理解すると言うことはどういうことなのかを考えてかかわって行きたい。（資料を参考にかかわって行きたい。）
- 24.これから本人をまじえた場を増やしていき本人の声を多くのスタッフや関わる人がきく場を設けていく。かならず本人にきくことを行っていきたい。押しつけないケア。

25. 日常業務においてもっと利用者様を見てもっと知る努力をしようと感じました。あくまで利用者様本人主体であることを頭に入れて職員主体にならないようにしていきたい。
26. 権利の主体と内容をしっかりと考え仕事していく。また、本人の意思決定の支援として、状態に合わせた情報提供や必要があれば介入していく事もあるが、最初から決め付けず出来る事に目を向ける。押し付けになっていないか常に意識する。
27. 根拠をみきわめていく。色々なことを本人抜きに決めない。
28. 上記とかぶるが常に今回の研修で学んだ視点で支援しているのか立ち止まることで活かしたい。
29. この講義に近づけられるかわからないが、職場や後進育成に波及させたい。早く咀嚼し自分の中に取り込みたい。
30. 当事者の考えや思いを理解する努力をし、本当に必要な支援を一緒に考えて行けるようにしたい。
31. 基本的人権ということを理解しその事をふまえて支援する。
32. ケース検討、モニタリング等本人とお話する機会を作った上でご利用していただく生活してもらうよう、まずは聞くこと、確認することを徹底していきたいです。
33. ケース会議やケアプラン作成時は、利用者を含めて話し合いを行いたい。
34. 現在の状況がどのような状態であったとしても人として生きるための基礎となる要素に欠落の無いこと、その上で本人の嗜好、志向等を尊重すること。周囲の人々との関係を重要視していくことを心掛けたい。
35. 本人を主体とすることから離れないよう関わりたい。訴えの強い人（家族等々）に引きずられない。
36. 公法上の権利の考え方を意識していきたい。本人のことは本人を含めて会議や話し合いをしていきたい。
37. その人のため、思いやり、という無意識に湧き出る思いと行動にひそむ支配に気をつけていきたい。
38. 体制上、業務上、仕方がないという思いがあり、どうしても利用者本人を中心に考えることが不十分になっている事が多くある。今回、人としての権利を考えた事を常に意識しながら自らの仕事に取りくんでいきたい。
39. 本人を見ることの重要性。課題、主訴は何であるか。問題とするならば、原因は何なのか。ex) 病気なのか、親族関係なのか、社会的な抑圧 etc. 本人（当事者）の過去、現在に気持ちを傾けていく姿勢をもっていく。
40. まずは専門家から見た最善を押しつけるのではなく、本人に選択肢とその判断材料を示し、コミュニケーションを多くすることから始めたい。

3 『その人の権利と権利擁護』～人の権利から支援のあり方を考える～  
に関連して、更に学んでいく必要があると考えるのは何ですか？

1. 「権利」ということを今回学ばせて頂いた中で、本当に奥が深く答えがないと感じました。最初に「誰れの」どんな権利との題の時に、一歩まちがえれば周りが楽をするためになってしまっているとありました。あくまでも主体は当事者でありそれ以外のものはないと思いました。今後話し

合いの中で主体が周りになることは多くなると思いますが、ぶつかっていき「本人の権利」というものをもっと学んでいきたい。

- 2.本人の障害の理解と共に本人の権利を考え、意思決定できるように提案する。決めた内容について尊重する。
- 3.その人の判断能力がどの程度のものなのか？どのような生活歴、病歴を持っているのか？「その人がそうしたい」からといってセルフネグレクトに対して何も支援しなくていいわけではない。自分も相手も「したいことはしたい」「したくないことはしたくない」
- 4.本人にとっての権利公法上の権利は何があるのか常に意識し学んでいかなければならない。
- 5.本人がどのように思っているのかを聞く機会を（自分の持っている差別、偏見の意識がある上で）持っていく、考えていくことが必要だと思った。
- 6.本人が理解判断できる、自己決定できるような知識、分かりやすい説明、本人をとりまく環境（家族、地域、事業所、行政）へのアプローチ。
- 7.様々な価値感がある中で、本人の意思に添えるコミュニケーション能力を学んでいく必要があると思います。意思を伝え辛い方のシグナルをどうキャッチしたら良いのか、具体的などころにもふみ込んでいきたいです。学び続けること、そして学んだ思いを実行するための行動力を身につけたいです。
- 8.自分は福祉の仕事をしているので、だからこそおち入る考えがちな点があると思いました。本人にとって良い方向を決めつけてしまわないように思いや考え、判断についてよく検討していく場面や機会をつくっていききたいです。
- 9.絶対に揺らいではいけない原則的立場に立った上で、個々のケースにどう関わるか。原則か原則として通じないことが多い中、どのような工夫考え方が必要なのか。
- 10.権利擁護の実践について学んでいきたい。
- 11.本人の意思決定をサポートするための選択肢を知ること。本人の意思決定を阻む状況についての対応。
- 12.正直理解できたようで理解できなかった。そんな気持ちです。もう一度、来年、同じようなテーマで研修して頂きたいです。
- 13.その人の能力に応じた情報提供をするための制度等の知識、伝え方。今回学んでも、又、忘れてしまわないよう繰り返し学ぶ必要があると思います。
- 14.相手にとっての最善の利益とはなにか・・・リスクも含めた生活する権利とは何かを時々立ち止まって、一緒に考える（対話）こと。選択しながら当事者本人が決める関わりを実践できるように学び続けたいと考えます。
- 15.どんなkとを権利侵害と考えているか。私たち（支援者）はマヒしていて気付けていないことがあると思う。
- 16.どうしたら本人の思いに寄りそうことができるのか、本人と話し合いをする上で気をつけるべきことは何かなどきちんと考えて向き合えるようになりたい。
- 17.何度もくり返しかくにんする必要があると思います。
- 18.障害者を理解すること。「さよなら CP」のビデオは感覚的に受け入れがたいものがあった。それが何なのか理解を深めたい。

#### 19.公法上の権利について

- 20.本人のためと思ってやることのこわさを自覚していく。権利擁護について考えを深めていきたい。
- 21.本人から権利ベースのケースの反復が必要と感じた。
- 22.支援者（専門職）でさえ（・・・であるからこそ？）理解を深めることはたやすくはない。これを一般の人と地域住民にどう伝えて理解してもらえばよいのかそのツールや技術を学びたい。
- 23.当事者の声を聴く機会持つ。本を読む。
- 24.障害支援が今どのようなになっているのかもっと深く学んでいきたいと思う。基本的な最低の権利を確認。
- 25.法的な権利や、まず根本的な事として「権利」をしっかりと勉強していかななくてはならないと感じた。
- 26.さよなら CP の映画や青い芝の会の運動のことさえも知らなかった。障害者の歩んだ歴史や事例等も学んでいく必要があると感じました。
- 27.大橋先生と小湊先生の話再度つめていきたい。むずかしい、わからないところがあったので。
- 28.相手（当事者・利用者）の立場を想像すること。なってみないとわからないが、わかろうと努力し、想像して理解者になれるのが私たちだと思う。様々な当事者を見てみたい。
- 29.当事者本人の思いを実現するだけでなく、支援者の考えや思いを理解し、協力できる環境を作るための学びが必要だと思う。
- 30.基本的人権の理解ができるように学ぶこと。支援のあり方について。
- 31.リスクを持った生活を実現していく上での自分達のサポートすべきところ、リスク管理の仕方。
- 32.障がいがあっても無くてもあっても人は人であり、権利を有する事を再確認出来た。
- 33.「人権」について ・自分の中の偏見
- 34.法的な根拠について
- 35.公法上の権利の考え方を基本に持つことが大切なので、その点を実践を通して学んでいきたい。
- 36.失敗させないように考える人に対してわかってもらえるよう声かけの方法、環境づくり。
- 37.その人の権利を前提に支援していくためには本人を理解し、話し合っていく事が必要であると学んだ。そのためには本人が抱えている障害や病気など細かく学んでいく必要があるとより思った。
- 38.三障害＋生活障害、認知機能障害 etc. 権利について。普通概念はこれ！！という格言はない。が、障害のある人が生活できる視点で、私自身の都合とならず、支援のあり方を研さんしていきたい。
- 39.本人が何をしたいか、何をできるかを日常的に接していない立場でどのように知ることができるか。また、それらを親族や施設等の支援者とどのように理解し合って本人を中心とした支援につなげていけるか。

#### 4 その他、この研修で感じたことなど。

- 1.様々な専門職の立場や年数で様々な考えがあり、とても勉強になった。
- 2.本人との対話をしていく中で、うまくいかないことがあるかもしれないので、振り返るきっかけをもっていきたい。

- 3.人として尊重されあたりまえの生活をしていきたいということは当事者も支援者も同じこと。一人の人としての関わり合い、信頼関係を築く。一人の人として尊重する「その人の権利」を忘れない、忘れても振りかえる。
- 4.関係性の良い状況は今から作っていかなければならないなあ。
- 5.あたりまえのように思い行っていたことが本当は権利侵害になっていたことを知ること、反省することが多かった。学んだこと、反省したことについてどう今後生かしていけるか、自分でもう一度考えていきたいと思う。
- 6.「ある程度理解しても、支援に活かさなければ意味はない。」本当に重く感じました。一気に全てといかにまでも、学んだことを活かし、また広めていきたいと思いました。
- 7.多職種の方と話し合うことでとても刺激を受けました。「本人目線で考える」というワークもとても良い気づきになったと思います。
- 8.忘れていることが多い。自分の考えが経験によって正しいと思ってしまい、多角的にみたり、自分のところだけをよくしていこうと思っているかもしれません。立ちどまってこれで良いのか（自分も周りも）見直しふりかえりをしていくことを頭に入れておきたい。
- 9.自分と違う職種、立場の方々の意見等を聞けてとても刺激になったし、学ぶところが多かった。
- 10.「人」の役に立てる仕事を続けたい。そのために学び続けることに努めていきたい。
- 11.自分が業務の中で、どれだけ本人を主体にできていないか痛感しました。本人の意思決定を支援するために学んでいきたい。
- 12.やはり現場では必要最低限の私法上の権利「契約」というその事を遂行すれば、それで良いという風潮になる。それだけにとどまらず公法上の権利という所まで求める考えられる事業所でありたい。
- 13.人の考えやとらえ方は様々だと実感しました。どれが正しいという答えもありません。
- 14.自立に大切なことは依存先（安心して）を増やすこと。価値ある人間として実感できる支援をしようとする人々が沢山いることが喜ばしかったです。
- 15.ふだんあまり考えていなかったことをいろいろと考えさせられるきっかけとなり、自分自身と向き合う時間にもなったと思う。またグループの方々や他のグループの方々などの意見をきかせていただいたことで、自分にはない考え方に気づかせてもらった。
- 16.グループの中でも話に上がったのですが、2日目、2本の映像をみて、「さよなら CP」はとてもみるのを辛く感じました。映像が伝えるメッセージ性のちがいだろうか？という意見もでしたが・・・。テーマが大きいので消化不良でした。力不足です。
- 17.まだうまく整理できない。頭で理解はある程度できたと思っているが、感覚的にモヤモヤするものがある（障害者に対して）。権利って何か・・・またわからなくなった。
- 18.長い時間ていねいに研修で話を聞く事ができ勉強になりました。ありがとうございました。
- 19.措置の方が処分が決定するまでていねいな調整されていると感じていました。
- 20.研修だけでなく、交流の場があつていい。中身の濃い研修でした。ありがとうございました。
- 21.地域住民から排除されがちな認知症の人々をどうすれば守れるのか。きれいごとでは解決できない。
- 22.反省あるのみ

- 23.病気だから障害があるからという偏見をなくすこと。その人ひとりをしっかりみる、本人の声をきくことの大切さを改めて感じました。みんながその人をわかろうとすることができれば住みやすい社会になるのではと感じた。自立をそがいすることがまだまだ多いと実感した。
- 24.自身の日常業務を振り返り、職員主体になってしまっている部分があったと反省しています。
- 25.いかに今まで自分が「権利」を意識していなかったか。しっかりと反省し、これから「権利」について深く学んでいきたい。
- 26.当事者によりそい理解するというを1つ1つ場面ごとにひもとくと、奥が深く難しいと感じました。情報を伝えて、その中から、自己決定してもらうことが生きる喜びになることも改めて感じました。
- 27.苦しかったです！重かったです！テーマが・・・考えすぎて・・・
- 28.長年参加させてもらっているが新しい感じがした。これはこれで良かった。
- 29.支援者としてだけでなく、一個人として当事者本人や家族、他支援者と良好な関係を作って行きたいと感じた。当事者の代弁者として本人のことを一番に考え、行動できるようになりたい。
- 30.支援をするということは難しいと感じた。
- 31.何度も何度も繰り返し、積み重ねて理解と想いを深める機会の1つとして、また学びに来たいと思います。
- 32.「その人を中心に考え続ける事の大切さ」を学ぶ事が出来た。
- 33.「さよなら CP」を観て、この半世紀にわたり日本によく「福祉」の概念が少しずつ定着し始めてきたのだと感じた。ソーシャルアクションの重要性に気付かされた。医療や介護の現場の声を聴けて良かった。
- 34.全ての人が当たり前持っている権利を必要とする人に活かして、使えるように情報提供であったり説明であったりを適切にできるようにしていきたい。
- 35.本人の権利、意向を主体に考える必要性を改めて学ぶことができたと思う。
- 36.今回2日間で当事者の権利について深く考えることが出来た。日々の実践の中でも、考え、話し合っていく必要があると強く感じた。
- 37.「我々（健常者）は配慮されている」という言葉が印象に残った。障がい者への合理的配慮について厳しく考えることもあったが、現在の社会は健常者に向けて（配慮して）作られており、そのため障がい者に不便を与えているのではないか。